

	時が経過する。	0	1.9	1.4					○
7	ある地位につく。	0	7.7	1.4					○
8	みじめな状態になる。	0	3.9	0					○
10	物事ができあがる。	14.3	0	2.7					○
12	することができあがる。	0	0	4.1	○				
18	尊敬 お~なる	0	0	1.4	○				

8	そういう音を立てる。	2.0	1.6	0	○				
9	(擬態語について) 　　そういう刺激性の状態が表れる。	2.0	0	0	○				
11	「と」の受ける事柄を取りたててそれに関して下に述べる場合(補助的用法)	2.0	3.1	13.2	○				

い　　う

各調査対象「語い」が、それぞれの傾向の型をいくつもっているかという角度から、さらに整理をすすめてみた。

意味 №	意味・用法	$y = \frac{a}{b} \times 100$			y の傾向変化				
		1年 %	2年 %	3年 %	I	II	III	IV	V
1	口に出す。	57.1	25.0	35.5			○		
	口をきく。	14.3	48.4	17.1				○	
2	思うことを見聞したことを言葉に表す。	6.2	0	10.5			○		
3	呼ぶ。	6.1	4.7	9.2			○		
	名づける。	6.1	0	0	○				
	称する。	4.2	9.4	9.2				○	
4	世間の人々が口にする。(伝聞)	0	7.8	5.3				○	
	(擬声語について)								

型	y の 変 化 傾 向	す る	い る	あ る	な る	い う
I	学年をおって大となる	3	4	4	1	1
II	学年をおって小となる	2	⑤	①	1	③
III	2 学年が最小である。	4	②	3	3	③
IV	2 学年が最大である。	⑥	3	6	⑤	③
V	各学年とも 0 である。	⑩	②	⑦	⑩	⑩

ア. 数字は、その「語い」のもつ各型の数を示す。

イ. 数字を○でかこんだ型が、その「語い」にとって、もっとも多くあらわれるものであることを示し、いわば、その「語い」にとってもっとも多い意味の広がり方の傾向を示す。